

# 令和6年度 福島県中教研相双支部要覧



目 次	
役員・組織	－ 1
運営方針	－ 2
事業計画	－ 4
会計予算	－ 5
県主題と研究の進め方	－ 6
教科会員名簿	－ 8
教科外会員名簿	－ 10
学校別部別会員数	－ 12
支部会則・細則等	－ 13
中教研ローテーション	－ 15

福島県中学校教育研究会相双支部

## 令和6年度 福島県中学校教育研究会相双支部組織

役職名	職名	氏名	所属校名	備考
支部長	校長	高瀬 永志	中村第一中学校	
副支部長	校長	横田 和典	葛尾中学校	
	教諭	小泉 亮	鹿島中学校	
監事	教頭	猪狩 孝	学び舎ゆめの森	
	教諭	齋藤 公一	中村第一中学校	相馬地区 教諭代表
	教諭	藍原 広明	なみえ創成中	双葉地区 教諭代表
校長会代表	会長	塙 広治	原町第一中学校	相馬地区
	副会長	半杭 千歩	原町第二中学校	
	会長	武内 雅之	富岡中学校	双葉地区
	副会長	柳 沼敏文	広野中学校	
専門部長	国語	校長	横田 和典	葛尾中学校
	社会	校長	青田 亮一	なみえ創成中
	数学	校長	小林 正和	石神中学校
	理科	校長	塙 広治	原町第一中学校
	音楽	校長	小林 喜徳	鹿島中学校
	美術	教頭	大越 司	中村第一中学校
	保健体育	教頭	松田 直樹	双葉中学校
	技術・家庭	教頭	千葉 正俊	向陽中学校
	英語	校長	松本 涼一	檜葉中学校
	道徳	校長	半杭 千歩	原町第二中学校
	特別活動	校長	小林 邦彦	磯部中学校
	情報教育	校長	安良 公広	尚英中学校
	養護教諭	校長	武口 隆行	向陽中学校
学校図書館	教頭	星 由紀枝	鹿島中学校	
事務局長	校長	山田 耕人	小高中学校	
事務局次長	校長	安良 公広	尚英中学校	相馬地区
	校長	松本 涼一	檜葉中学校	双葉地区
会計(幹事)	教頭	滝澤 英雄	小高中学校	相馬地区
	教頭	福尾 淳	檜葉中学校	双葉地区

# 令和6年度 福島県中学校教育研究会相双支部運営方針

## 1 目 的

- (1) 教育専門職としての自覚に基づき、自主的研究意欲を結集し、組織的に共同研究を進め、中学校教育の充実振興に役立てる。
- (2) 本会研究主題と校内研究実践との緊密化を図り、効果的な現職教育に努める。

## 2 方 針

- (1) 会員の自主的研究、各学校・各地区の実践的共同研究を推進する。
- (2) 各専門部は、理事が中心となり、研究計画を立て運営に当たる。研究会場校は、学校の実態を考慮の上、当該研究部に対して側面的に援助し、研究会場の設置並びに研究授業あるいは問題提起等を行う。
- (3) 会員一人一人の研究を尊重・奨励する。
- (4) 会員の主体的な研究により専門性を高め、各自の研修履歴に残せる研修とする。

## 3 研究の進め方

- (1) 各教科、道徳、特別活動については、令和4年度から3年継続の3年次として、県の基本主題及び各専門部の研究主題・副主題をもとに研究計画を立てて研究を深める。ただし、研究テーマについては県の研究主題を基とし、サブテーマを設けることは差し支えない。
- (2) 特別研究部は、各部の独自の計画に基づいて研究を進める。
- (3) 各専門部は、当地方の実態を考慮し、これにあった具体的な研究項目を設定し、組織的・計画的な研究を推進する。
- (4) 会員一人一人の研究を奨励する方法を講ずる。

## 4 研究行事

- (1) 一斉研究会 ※日時については行事調整により変更あり

研究協議会	開催日時	会 場	内 容
第一次研究協議会	7月26日(金) 9:00 ～16:00	南相馬市立原町 第一中学校、原 町第二中学校* 一部午後	午前：全体会（放送）、各 教科・養護教諭部会 午後：教科外部会 研究推進、県大会参加者決定
第二次研究協議会 (各教科・養護教諭部会)	11月 7日(木)	各研究会場校	授業に基づく研究協議等、 各部会計画による 県大会報告等
県大会合同開催	10月4日(金)	原町第一中学校	相双支部理科部会県大会
(特活、道徳、情報 教育部会)	11月11日(月) ～15日(金) 13:30 ～16:00		

- (2) 専門部独自の行事は、年3回の理事会を除いては、授業に支障のないように配慮する。
- (3) 専門部により、生徒を対象として行う行事がある場合は、支部長と校長とが合議の上、計画し実施する。
- (4) 各専門部の理事会は、支部長に連絡の上、支部長と部長の連名で招集する。ただし、理事会の旅費は、県費旅費の対象とならないので、行事承認の必要はない。
- (5) 組織的研究を進めるためには、授業に支障のない範囲で隣接校との共同研究を奨励

する。

(6) 会員一人一人の研究を推進するために、予算の範囲内で研究奨励費を出す。

## 5 予 算

(1) 会費は一人年額 2,000円 とする。(養護教諭は1,000円)

(2) 市町村会からの補助金は相馬地方77,000円、双葉地方38,000円である。

(3) ワークブックの調査研究補助金は、すべて雑収入に入れる。

## 6 第二次研究協議会場校

※ローテーション案より

専門部会	研究会場校	専門部会	研究会場校
国 語	広野・学び舎ゆめの森	技術・家庭	尚英中学校
社 会	石神中学校	英 語	鹿島中学校
数 学	中村第二中学校	道 徳	いいたて希望の里学園
理 科	原町第一中学校（県大会）	特別活動	ふたば未来学園中学校
音 楽	原町第二中学校	情報教育	原町第三中学校
美 術	中村第一中学校	学校図書館教育	読書感想文審査会場
保健体育	原町第一中学校	養護教諭	中村第二中学校

### <留意事項>

(1) 各部理事会の開催について

- ① 年3回以内とする。
- ② 校務に支障のないように配慮する。
- ③ 旅費は部会負担とする。(本会の旅費規程及び各理事会運用方法による)
- ④ 支部長の了解を得て、支部長及び部長連名で開催の通知をする。

(2) 第一・二次研究協議会における指導助言者、講師について

- 教育事務所指導主事、地教委指導主事を申請する。
- 部長が当たる場合もある。
- 旅費については、各専門部会の予算から支出する。
- 講師派遣申請の事務は、各専門部会の申出により一括して事務局が行う。

(3) 部会の運営について

- ① 各教科、道徳、特別活動とも、主題・副主題の趣旨を十分に理解し、支部として工夫を加えて研究を進め、成果を上げるようにする。
- ② 第二次研究協議会は、授業日に一斉に行う趣旨を踏まえ、部会の計画によりできる限り授業をとおして研究を深め、成果を上げるようにする。
- ③ 特別研究部会もできるだけ日常実践を通して研究を深め、研究の成果を上げることが望ましい。

(4) 市町村から研究指定されている場合

- 研究部会の研究要項・資料を添えて、教育委員会に案内状を出す。

(5) 県大会開催部会は支部第二次研究協議会と兼ねる。

## 令和6年度 福島県中学校教育研究会相双支部事業計画

行事・会合名	日 時	会 場	役・人数	内 容
第1回学校委員会	令和6年 4月11日(木) 14:00～16:10	鹿島万葉 (大会議室)	役員、委員 推薦理事 60名	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年度事業・会計、6年度運営方針、事業計画報告</li> <li>6年度予算案審議承認</li> <li>役員改選、各部理事の選出他</li> </ul>
役員・理事合同会	4月15日(月) 14:00～16:10	鹿島万葉 (大会議室)	役員、部長 各研究部理事 90名	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年度事業計画、予算報告</li> <li>各研究部組織づくり</li> <li>各部事業計画、予算編成等協議</li> </ul>
県：総会(午前) 専門部総会(午後)	5月10日(金)	福島市	支部長 専門部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年度事業計画、予算報告</li> <li>研究方向決定、主題研修</li> </ul>
主題研修報告会	5月13日(月) 以降	(書面開催)	全会員 270名	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部研究テーマに基づく研究推進等 情報確認・共有</li> </ul>
第一次研究協議会	7月26日(金) 9:00～16:30	原町一中、 原町二中(午 後一部)	全会員 270名	<ul style="list-style-type: none"> <li>午前：開会式、教科部会</li> <li>午後：教科外部会、閉会式</li> <li>※各部研究推進、県大会参加者決定</li> </ul>
県：第1回委員・理事 合同会	8月 日( )	福島市	支部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>総会の反省、県の運営について</li> </ul>
県研究協議会 (各地区)	10月4日(金) 9:00～16:00	各地区研究 会場 原一中(理科相双大会)	支部代表 24名 理科部会員 35名	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業公開</li> <li>分科会ごとの研究協議</li> <li><b>*県中学校教育研究会理科部会相 双大会</b></li> </ul>
第二次研究協議会 (各教科・養教部会)	11月7日(木) 13:30～16:00	各研究会場 *理科部会除く	該当会員 235名	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に基づく研究協議等、各部会の 計画による</li> <li>県大会報告等</li> </ul>
第二次研究協議会 (特別活動・道徳 ・情報教育部会)	11月11日(月) ～15日(金)	各研究会場	代表者 60名	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に基づく研究協議等、各部会の 計画による</li> <li>県大会報告等</li> </ul>
監査委員会・役員 会	令和7年 1月14日(火) 15:00～16:10	中村一中	監事・役員 校長会長 計9名	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年度会計監査</li> <li>6年度事業報告、各部事業反省</li> <li>7年度運営計画案、事業計画案</li> <li>7年度予算案提案 等</li> </ul>
県：第2回委員・理事 合同会委員	1月 日( )	福島市	支部長他	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年度運営計画、総会・研究会運営</li> </ul>
第2回学校委員会	1月30日(木) 14:00～16:10	鹿島万葉 (大会議室)	役員、各部 長、庶務理 事、学校委 員 60名	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年度事業報告、各部事業反省</li> <li>6年度会計決算報告</li> <li>7年度運営、計画案、事業計画案審 議承認</li> <li>7年度予算案提案</li> <li>推薦理事の確認</li> </ul>
県：会計監査	3月 日( )	福島市		

※ 日時、会場等については、令和6年度末の管内行事調整委員会で決定する。

※ なお、この他に各専門部毎の理事会をそれぞれ3回開催できる。

## 令和6年度 福島県中学校教育研究会相双支部 会計予算

I 収入総額	811,498 円
II 支出総額	811,498 円
III 差引残額	0 円

### 1 収入

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	増 減	摘 要
会 費	527,000	527,000	0	2,000円×255人(相馬173人、双葉82人) 1,000円×養17人(相馬11人、双葉6人)
助 成 金	115,000	115,000	0	相馬地方市町村会負担金77,000円 双葉地方市町村会負担金38,000円
繰 越 金	87,498	106,726	△ 19,228	前年度繰越金
雑 収 入	82,000	150,000	△ 68,000	県中教研本部より、貯金利息
小 計	811,498	898,726	△ 87,228	

### 2 支出

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	増 減	摘 要	
総務費	事務費	15,000	30,000	△ 15,000	封筒、コピー用紙等
	会議費	130,000	150,000	△ 20,000	学校委員会・合同理事会旅費、会場費他
	連絡費	20,000	10,000	10,000	送料、切手等
事業費	各部費	286,000	357,000	△ 71,000	各研究部費として配分 ※1 ※2
	奨励費	10,000	10,000	0	団体研究奨励として出品校2校 ※3
負 担 金	255,000	255,000	0	県中教研本部へ納入 ※4	
予 備 費	95,498	86,726	8,772		
小 計	811,498	898,726	△ 87,228		

(★県中教研本部からの研究奨励費は、変更の可能性がありますのでご了承ください。)

※1 17,000円×(国社数理音美体英道特)+30,000円×(技・家)  
+ 9,000円(情)+14,000(図)+14,000(養)

※2 特別補助として、英語18,000円、音楽18,000円、美術9,000円、学校図書館4,000円

※3 5,000円×2

※4 「負担金」は2,000円×会員数255(養護教諭17を除く)×0.5で算出したものである。(100円未満は繰上)

以上、提案致します。

福島県中学校教育研究会相双支部長      高瀬 永志

福島県中学校教育研究会相双支部会計      滝澤 英雄、福尾 淳

令和6年度 会 員 名 簿 (学校委員会用)

【教 科】 ◆部長 ◇副部長 ・各校主任 ◎庶務理事 ○理事 ※講師 校長◎ 教頭◎

	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽
尚 英 中	・中塚久美子	・※佐藤博之、遠藤礼都、安良公広◎	・太田淳子、鬼島祐樹	・平塚健次郎	・齋藤美保子
中村一中	◇○保科峻哉、中島裕子、山田凜	○齋藤公一、山岸正明、鹿目大樹	○渡邊英樹、酒井孝平、※島善信	○渡部兼介、武澤さやか、新井雄輔	◇○森島さや香
中村二中	・佐藤順子、田川理紗	○※佐藤雅信、反畑増生◎	・矢吹吏志、寺島大地	・天沼啓太、小栗隆士◎	・齋藤也美
向 陽 中	・矢吹美智、齊藤徹、※星淳美	武口隆行◎、・小林こすえ、※武内いずみ	・渡邊和也、※渡部真梨子、○田中涼太	・平塚瞳、佐藤拓也、野田侑里	・松本朋子、※星紗央里
磯 部 中	・齋藤直樹		・岩崎里枝、小林邦彦◎	○高田磨美加	
鹿 島 中	・加藤千尋、星由紀枝◎	・嶋野真一、矢吹凌	・横道喬	◎鈴木和哉	・橋本あやな◆小林喜徳◎
原町一中	・高橋里沙、矢内大貴、竹原美由紀	・鈴木英史、佐藤千賀子、今野隆	・高橋良太、村田健斗、※関口聡	・東條友輔、菅野貴恵子、矢吹詩歩、◆塙広治◎、堀内浩明◎	・鈴木淳子
原町二中	○羽田茉央、鈴木里奈	・波多野雄二、中塚翔斗	・谷雅之、高木忠明◎、半杭千歩◎	・桑葉裕之、星湧也	◎齋藤英恵
原町三中	・上遠野澄枝	・高橋典明	・大嶋楓希	・櫻雅貴	
石 神 中	・宮原千津山崎健太郎	◇○菅野智行、黒ははた颯	・佐藤朝恵、飛澤健敬、◆小林正和◎	・嶋原由紀恵	・佐藤由基
小 高 中	・小野 祐季		○星 智哉	・滝澤 英雄◎	・秋元 裕美
いわた希望の里学園	・三岡優依	・渡邊秀一	・川前久美、◇亀田邦弘◎、菅野亮	・菅野大輔	・清信律子
な み え 創 成 中		佐々木卓美◎、◆青田亮一◎	・西坂勇輝	・佐藤花苗	
葛 尾 中	・長階哲哉、◆横田和典◎	◎三浦智美	遠藤正一	佐藤直人	
双 葉 中	・高岡遥		・鹿股奈緒	・猪井紀寿、新田勇雄◎	※吉田佳世子
富 岡 中	◎穴戸沙絵	・山田実	和泉勝之、日野彰日和田聡、武内雅之◎		
檜 葉 中	・落合志保	・高田涼太、福尾淳◎	・吉田智子	・西恵美	・菅野美羽
広 野 中	・佐久麻緒	・今泉英哲、※吉田創一		・渡邊誠也	
ふたば未来学園中	花塚寛、・佐藤弘章		・中目公禎、石澤雅晴、橋本康史		
学び舎ゆめの森	・畑田美里	南郷市兵◎、・柴田理臣	猪狩孝◎、◎鈴木健太	・滝康成	
川内小中学園	陣野靖広	・後藤朝彦	海老原篤◎、※藤井裕太	◇○門馬徳夫	・立谷隆太郎
計	32	33	42	30	15

	美術	保健体育	技術・家庭	英語	
尚 英 中	・橋 祝子	・松本誠喜、三瓶 仙幸、高玉美紗子	◎佐藤 伸 -----	◇○八木一真、山内政俊◎	15
中村一中	・※松浦亜沙子 ◆大越司◎	・田川雄一、菅波 匡崇、西かなえ	----- ○阿部友香	・馬場之枝、梅田夏歩、三 瓶祐梨、高瀬永志◎	23
中村二中		・五十嵐岬、※志 賀悟	○阿部文彦 ----- ○稲村純子	・馬場正衣、※佐藤静夏	15
向 陽 中	・佐藤瑞穂	○※今野裕斗	◆千葉正俊◎、 ・佐藤克成 ----- ・阿部三智子	・坂本秀、伊藤はるか、渡 邊悠斗	22
磯 部 中		◇加藤芳史◎		・齋藤由樹	6
鹿 島 中	・遠藤希	◎横山紀美枝、※ 杉内由智	・※佐伯重成 ----- ・佐々木博子	・小泉亮、太田しのぶ、豊 田明子	16
原町一中	◎湯澤文恵	・伊賀篤二、小野 菜々子、※田中滉 大	・渡邊真大 ----- ◇田中万紀子	・久保田広樹、五十嵐元 江、◎木幡秋那	24
原町二中	○蛭田 真衣奈	○高橋麻里奈	-----	・佐藤裕一、柚原亜紀子	14
原町三中	・舟山葉子	・志賀おり江	・清信元博◎ -----	・菅野 蓮、松本一美、和 田節子◎	10
石 神 中	○諸井元	・羽根田一弘	・田野入秀浩◎ -----	・三浦有矢、千葉綾佳	14
小 高 中		・泉新吾、志賀裕 美	-----	・加藤みゆき、山田実加、 山田耕人◎	9
いいて希望 の里学園		紺野江里、松本大 光、※荒高史	-----	・飯塚崇、根本奈於	12
な み え 創 成 中		・藍原広明、三瓶 香織	・五十嵐大輔 ----- ・渡邊恵理嘉	○樋口智之	9
葛 尾 中		・山田久吉◎		・山田昌典	7
双 葉 中		・阿部紗也加、 ◆松田直樹◎		・室井知美	8
富 岡 中		・鈴木悠治		志賀依澄	8
檜 葉 中	○南原絵理	・西崎仁		・山内紳一郎、◆松本涼一◎	10
広 野 中		柳沼敏文◎、目黒 紗智、※寺内李玖	----- ・日野みわ子	松岡里加子	9
ふたば未 来学園中	◇吉野晃一	吉田裕		・深沢正人、星耕三、※佐 々木路代	10
学びゆめの森		・相沢健生			7
川内小学園		・尾下蒼依		・菊地めぐみ、※境田将吾	9
計	11	36	16	42	257

# 令和6年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方

基本主題：「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」

## 1 基本主題設定の趣旨

これからの時代は、生産年齢人口の減少、グローバル化や技術革新等により、社会構造や雇用環境が急速に大きく変化中、急激な少子高齢化が進み、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。また、人工知能（AI）が飛躍的な進化をとげ、雇用の在り方や学校で獲得する知識の意味に大きな変化がもたらされても、思考の目的を与えたり、目的の正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっていくとも言われている。

このような時代において、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。子どもたちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。

令和4年度から、基本主題「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」に基づき研究を推進してきており、次年度は、本基本主題の最終年度となる。令和3年度に新学習指導要領が全面实施となったことを踏まえて、今までの研究成果を基に、各教科で「主体的・対話的で深い学び」をさらに具体化、深化させる3年間の研究になると考える。また、「生きる力」という理念をより具体化した「社会を生き抜く資質・能力」を育むには、これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を各教科等において明確にすることが重要になる。

基本主題には、震災から10年以上が経過しても、子どもたちが変化する社会の中で、ふるさとふくしまに思いを寄せ、復興の中心となって新たな未来を創造するために活躍できる人材に育つことを願い、県中教

研として、そのような生徒を育てなければならないという使命感も込められている。

各専門部においては、これまでの研究の成果及び課題を十分に踏まえながら、これらの趣旨に基づき、会員一人一人が、本会の目的に適合した主体的な研究が発展的に推進できるよう、創意工夫が望まれる。

## 2 研究の進め方

東日本大震災から10年以上が経過してもなお厳しい教育環境の中において、「生徒にとって、最も身近で、最も重要な教育環境は教師であり、授業である」ことを肝に銘じ、本会設立当初の「教育を愛する者が、愛する生徒たちのために、自分に鞭打つその鞭を求めて集い合う研究団体である」という原点に立ち返って、教師としての情熱と使命感をもって研鑽に励むことが望まれる。

各支部・各専門部は、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえつつ、基本主題設定の趣旨を十分に踏まえた上で、研究のねらい、内容や方法を明示して研究実践に取り組む必要がある。そのために次の点をおさえて実践内容の重点化を図り、研究の深化が得られるように努力する。

- (1) 基本主題、研究主題・副主題の設定の趣旨の周知を図り、その趣旨が十分に生かされた研究実践を推進する。
  - 会員の共通理解に立った研究計画のもと研究を実践する。
- (2) 各支部においては、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえながら、研究推進3年次として課題と方向性を明確にして研究実践を推進する。
- (3) 会員一人一人が、研究主題・副主題の趣旨を理解し、自校の生徒の実態に即応した、実効ある研究を推進する。
  - 生徒の実態をとらえ、課題を明らかにし、研究の有効性を的確に評価しながら継続的に研究実践を推進する。
- (4) 支部研究協議会の運営等について工夫し、各専門部の研究活動を充実させる。
  - 各支部会員相互の研究実践に対する意識の高まりを促し、充実した運営を工夫する。
- (5) 各教科で発行している部報を適切に活用し、研究実践を推進する。
  - 日常的な研究実践に活用するとともに、支部専門部長会報告会、研究協議会での活用を図る。

## 令和6年度基本主題及び各専門部研究主題

基本主題：主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、  
ふくしまの未来を創造する生徒の育成

専門部会	研究主題・令和6年度研究副主題
国 語	◎ 言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどうすればよいか。 R6 国語における学びに向かう力の評価の工夫
社 会	◎ 持続可能な社会を実現するために必要な資質・能力を育む社会科の指導はどうすればよいか。 R6 協働的な学びを通して、新たな価値を創造する力を高める授業の工夫
数 学	◎ 数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R6 知識及び技能の習得を図る指導の工夫
理 科	◎ 科学的に探究する学習活動を通して、未来を創造するための資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R6 日常生活や社会との関連から見いだした課題を探究し、学んだことを自己や地域に生かそうとする学習活動の工夫
音 楽	◎ 音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R6 感性を豊かにする指導と評価の工夫
美 術	◎ 多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。 R6 美術の広がりや自己表現
保健体育	◎ 体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。 R6 自他の健康課題に気づき、知識を活用して正しく判断し、意思決定と行動選択ができる指導計画や学習過程の工夫（保健分野）
技術・家庭	◎ 生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか。 R6 よりよい生活の実現のため、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するためのふり返りの工夫
英 語	◎ 社会や世界と向き合い、他者との関わりを大切にしながら目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。 R6 言語活動（指導）と評価の一体化のための工夫
道 徳	◎ 自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか。 R6 自己の学びと自らの変容を実感することができる評価の工夫
特別活動	◎ 様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み、集団や個人の課題を解決し、よりよい社会を創ろうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。 R6 集団や社会の一員として、将来や自分らしい生き方を創造する力の育成

【教科外】

	道 徳	特別活動	学校図書館
尚 英 中	・中塚久美子、斎藤美保子、平塚健次郎、遠藤礼都	・三瓶仙幸、八木一真、高玉美紗子、※佐藤博之、鬼島祐樹	・山内政俊◎
中村一中	・森島さや香、梅田夏歩、阿部友香、◎新井雄輔、※松浦亜沙子、高瀬永志◎	・渡邊英樹、渡部兼介、西かなえ、酒井孝平、山岸正明、※島善信、大越司◎	・山田凜、中島裕子、保科峻哉
中村二中	・齋藤也美、田川理紗、佐藤雅信、寺島大地、小葉隆士◎	◎天沼啓太、矢吹史志、馬場正衣 反畑増生◎	・佐藤順子
向 陽 中	・平塚瞳、田中涼太、星淳美、※野田侑里、矢吹美智、坂本秀、※武内いずみ	・小林こすえ、伊藤はるか、※今野裕斗、渡邊悠斗、佐藤瑞穂、※星紗央里	・齋藤徹
磯 部 中	・高田磨美加	・岩崎里枝、◆小林邦彦◎	・斎藤直樹
鹿 島 中	・矢吹凌、遠藤希、※杉内由智、小林喜徳◎	・太田しのぶ、横道喬、橋本あやな、佐々木博子、横山紀美枝	○加藤千尋、◆星由紀枝◎
原町一中	・菅野貴恵子、高橋里沙、高橋良太、五十嵐元江、矢吹詩歩 ※田中滉大、塙広治◎	・東條友輔、佐藤千賀子、湯澤文恵、木幡秋那、鈴木英史、堀内浩明◎、田中万紀子	◎矢内大貴 竹原美由紀
原町二中	○高橋麻里奈、蛭田真衣奈、◆半杭千歩◎、高木忠明◎	・中塚翔斗、齋藤英恵、柚原亜紀子、	・羽田茉央、鈴木里奈
原町三中	・舟山葉子、志賀おり江、和田節子◎	・櫻 雅貴、清信元博◎、大嶋楓希	・上遠野澄枝
石 神 中	・佐藤由基、山崎健太郎、諸井元、菅野智行	○三浦有矢、黒はばき颯、嶋原由紀恵、羽根田一弘	・宮原千津
小 高 中	山田実加、山田耕人◎	・星智哉、加藤みゆき、志賀裕美	・小野祐季
いいたて希望の里	・三岡優依、亀田邦弘◎、松本大光、渡邊秀一、紺野江里、飯塚崇、根本奈於	・菅野亮、清信律子	
な み え 創 成 中	・樋口智之、渡邊恵理嘉、佐々木卓美◎	・西坂勇輝、佐藤花苗、青田亮一◎	
葛 尾 中	・三浦智美、横田和典◎	・遠藤正一	・長階哲哉
双 葉 中	・室井知美、松田直樹◎	・鹿股奈緒、猪井紀寿、※吉田佳世子	・高岡遥
富 岡 中	・志賀依澄、穴戸沙絵、山田実	和泉勝之、鈴木悠治、日野彰	
榎 葉 中	・菅野美羽、松本涼一◎、◇○西恵美	・高田涼太、山内紳一郎、◇福尾淳◎	・落合志保
広 野 中	・目黒紗智、※吉田創一	・今泉英哲、松岡里加子、○※寺内李玖	・佐久麻緒
ふたば未来学園中	・橋本康史、石澤雅晴、深沢正人	・吉田裕、・中目公禎、※佐々木路代	・佐藤弘章
学び舎ゆめの森	猪狩孝◎、・滝康成	南郷市兵◎、・柴田理臣	・畑田美里
川内小中学園	・菊地めぐみ、尾下蒼依	・後藤朝彦、立谷隆太郎、※境田将吾	・陣野靖広
教科外計	76	75	23

	情 報 教 育	養護教諭	合計
尚 英 中	・佐藤伸、松本誠喜、太田淳子、橋祝子、◆安良公広◎	濱部理栄	16
中村一中	・鹿目大樹、馬場之枝、武澤さやこ、田川雄一、齋藤公一、菅波匡崇、三瓶祐梨	鈴木文子	24
中村二中	・阿部文彦、五十嵐岬、佐藤静夏、稲村純子、志賀悟	◎加藤奈保	16
向 陽 中	千葉正俊◎、佐藤拓也、◇○渡邊和也、※渡部真梨子 松本朋子、佐藤克成、阿部三智子	◆武口隆行◎、 堀知佳	23
磯 部 中	・齋藤由樹、加藤芳史◎	小野亜弓	7
鹿 島 中	・※佐伯重成、嶋野真一、鈴木和哉、豊田明子、小泉亮	保科真生	17
原町一中	・渡邊真大、今野隆、伊賀篤二、久保田広樹、鈴木淳子、村田健斗、小野菜々子、※関口聡	渡辺愛里	25
原町二中	・谷雅之、桑葉裕之、波多野雄二	菅波 文	13
原町三中	◎菅野 蓮、松本一美、高橋典明	鈴木麻由子	11
石 神 中	・飛澤健敬、千葉綾佳、佐藤朝恵、田野入秀浩◎、小林正和◎	前川美由樹	15
小 高 中	・泉新吾、秋元裕美、滝澤英雄◎	◇○渡邊舞香	10
いいたて 希望の里	・菅野大輔、川前久美、※荒高史	大友千絵	13
な み え 創 成 中	・五十嵐大輔、藍原広明、三瓶香織	原 彩	10
葛 尾 中	・佐藤直人、山田昌典、山田久吉◎		7
双 葉 中	○阿部紗也加、新田勇雄◎	横田雅美	9
富 岡 中	武内雅之◎、・日和田聡	嶋原 成美	9
檜 葉 中	・吉田智子、西崎 仁、南原絵理	山口奈那	11
広 野 中	柳沼敏文◎、日野みわ子、・渡邊誠也	関裕子	10
ふたば未 来学園中	・吉野晃一、星耕三、花塚寛	鈴木 麗	11
学び舎 ゆめの森	・相沢健生、鈴木健太	大水達江	8
川内小中 学園	海老原篤◎、門馬徳夫、※藤井裕太	高野亜美良	10
教科外計	80	21	275
実会員数	20		
合 計	教科会員数計(257) + 教科外実会員数計(20) = 実会員合計277		277

\* 実会員：教科と重複しない教科外会員（養護教諭）

令和6年度 相双支部・学校別・専門部別会員数一覧

部 会	尚 英中	中 村 第 一 中	中 村 第 二 中	向 陽 中	磯 部 中	鹿 島 中	原 町 第 一 中	原 町 第 二 中	原 町 第 三 中	石 神 中	小 高 中	い い た て 希 望 の 里 学 園	な み え 創 成 中	葛 尾 中	双 葉 中	富 岡 中	檜 葉 中	広 野 中	ふ た ば 未 来 学 園 中	学 び 舎 ゆ め の 森	川 内 小 中 学 園	合 計
国 語	1	3	2	3	1	2	3	2	1	2	1	1		2	1	1	1	1	2	1	1	32
社 会	3	3	2	3		2	3	2	1	2		1	2	1		1	2	2		2	1	33
数 学	2	3	2	3	2	1	3	3	1	3	1	3	1	1	1	4	1		3	2	2	42
理 科	1	3	2	3	1	1	5	2	1	1	1	1	1	1	2		1	1		1	1	30
音 楽	1	1	1	2		2	1	1		1	1	1			1		1				1	15
美 術	1	2		1		1	1	1	1	1							1		1			11
保健体育	3	3	2	1	1	2	3	1	1	1	2	3	2	1	2	1	1	3	1	1	1	36
技 術	1		1	2		1	1		1	1			1									9
家 庭		1	1	1		1	1						1					1				7
英 語	2	4	2	3	1	3	3	2	3	2	3	2	1	1	1	1	2	1	3		2	42
<b>教 科 計</b>	<b>15</b>	<b>23</b>	<b>15</b>	<b>22</b>	<b>6</b>	<b>16</b>	<b>24</b>	<b>14</b>	<b>10</b>	<b>14</b>	<b>9</b>	<b>12</b>	<b>9</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>8</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>7</b>	<b>9</b>	<b>257</b>
道 徳	4	6	5	7	1	4	7	4	3	4	2	7	3	2	2	3	3	2	3	2	2	76
特別活動	5	7	4	6	2	5	7	3	3	4	3	2	3	1	3	3	3	3	3	2	3	75
情報教育	5	7	5	7	2	5	8	3	3	5	3	3	3	3	2	2	3	3	3	2	3	80
学校図書館教育	1	3	1	1	1	2	2	2	1	1	1			1	1		1	1	1	1	1	23
養護教諭(部会)	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	21
教科外計	16	24	16	23	7	17	25	13	11	15	10	13	10	7	9	9	11	10	11	8	10	275
実会員数(養教)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	20
<b>実会員数(教科+養教)</b>	<b>16</b>	<b>24</b>	<b>16</b>	<b>23</b>	<b>7</b>	<b>17</b>	<b>25</b>	<b>15</b>	<b>11</b>	<b>15</b>	<b>10</b>	<b>13</b>	<b>10</b>	<b>7</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>11</b>	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>8</b>	<b>10</b>	<b>277</b>

# 福島県中学校教育研究会相双支部会則

## 第1章 総則

- 第1条 この会は、福島県中学校教育研究会相双支部といい、事務局を支部長指定の学校に置く。
- 第2条 この会は、中学校についての研究を推進し、会員相互の資質の向上と、本支部中学校教育の発展と振興を図ることを目的とする。
- 第3条 この会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 1 講習会・研究会の開催
  - 2 教育に関する調査研究
  - 3 機関誌の発行及び研究物の出版
  - 4 支部研究会への協力援助
  - 5 他団体との連絡提携
  - 6 その他この会の目的を達成するのに必要な事業
- 第4条 この会は、本支部の中学校の教員をもって組織する。
- 第5条 この会に専門部を置き、各部の専門研究に当たる。その運営については細則で決める。

## 第2章 役員

- 第6条 この会に次の役員を置き、その任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
- 1 支部長（1名）
  - 2 副支部長（校長代表1名、教諭代表1名）
  - 3 監事（教頭代表1名、教諭代表2名 相馬・双葉）
  - 4 委員（若干名）
  - 5 部長（若干名）
  - 6 副部長（若干名）
  - 7 理事（若干名）
  - 8 事務局長（1名）
  - 9 事務局次長（校長代表2名 相馬・双葉）
  - 10 幹事（教頭1名）
  - 11 会計（教頭2名 相馬・双葉）
- 第7条 役員を選出は次のとおりとする。
- 1 支部長・副支部長・監事・事務局長・事務局次長は委員会で選出する。
  - 2 幹事、会計は、支部長委嘱とする。
  - 3 委員は学校より選出した1名と校長会代表3名及び前年度に選出した各専門部の理事あるいは代表者を充てる。
  - 4 部長・副部長は各専門部ごとに理事会で選出する。
  - 5 理事は、ローテーション表を基本に、委員会で各専門部の推薦理事を中心として決める。（方の人数も勘案する。）
- 第8条 役員の仕事及び会議は、次のとおりとする。
- 1 支部長はこの会を代表し、会務をつかさどる。
  - 2 副支部長は支部長を補佐し、支部長に事故ある時はその職務を代行する。
  - 3 監事は会計を監査する。
  - 4 委員は委員会を構成し、支部長の招集を受けて次の事項を決める。
    - (1) 会則の決定と変更
    - (2) 予算の議決・決算の承認
    - (3) 役員を選出
    - (4) 事業計画の審議
    - (5) その他会務に必要な事項の審議
  - 5 部長は専門部を代表し、専門部の事業を統括するとともに部長会を構成し、支部長の招集を受けて次の事項を決める。
    - (1) 各専門部の事業計画の調整
    - (2) その他会務の企画執行に必要な事項
  - 6 副部長は部長を補佐し、部長事故ある時は、その職務を代行する。
  - 7 理事は各専門部ごとに理事会を構成し、部長の招集を受けて事業計画並びに執行に当たる。
  - 8 事務局長は事業の計画立案並びに執行に当たる。
  - 9 事務局次長は事務局長を補佐し、事務局長事故ある時は、その職務を代行する。
  - 10 幹事は庶務・会計に当たる。
  - 11 会計は、会費徴収を行う。

## 第3章 経理

- 第9条 この会の経費は会員一人年額2,000円（養護教諭は1,000円）を拠出し、学校単位に納入する会費のほか、補助金・寄付金その他の収入をもってあてる。
- 第10条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

## 第4章 雑則

- 第11条 この会に次の簿冊を整える。
- 1 会則
  - 2 会員名簿
  - 3 役員名簿
  - 4 会議簿
  - 5 各部記録簿
- 第12条 この会は、相馬地方小学校教育研究会及び双葉地方小学校教育研究会と協議し、連絡会をつくることができる。
- 第13条 この会は、昭和39年4月1日より施行する。

改正 昭和40年4月26日 昭和41年4月26日 昭和42年4月12日 昭和44年4月24日  
昭和46年5月24日 昭和48年4月24日 昭和53年3月4日 昭和59年4月16日  
平成5年4月8日 平成11年4月8日 平成14年1月5日 平成15年2月5日  
平成19年2月7日 平成22年4月13日 平成24年4月12日 平成27年2月4日  
令和4年4月11日 令和5年4月13日

# 福島県中学校教育研究会相双支部細則

改正 令和5年4月13日

第1条 会則第5条に基づく専門部を次のとおり置く。会員は1及び2のいずれにも所属する。

## 1 教科研究部

- (1) 国語科研究部 (2) 社会科研究部 (3) 数学科研究部 (4) 理科研究部  
(5) 音楽科研究部 (6) 美術科研究部 (7) 保健体育科研究部 (8) 技術・家庭科研究部  
(9) 英語科研究部

## 2 特別の教科・教科外研究部及び特別研究部

- (1) 道徳研究部 (2) 特別活動研究部 (3) 情報教育研究部  
(4) 学校図書館教育研究部 (5) 養護教諭研究部

第2条 会則第6条に基づく方部は次のとおり置く。

- 1 相馬方部（新地町、相馬市、南相馬市、飯館村）  
2 双葉方部（浪江町、葛尾村、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町、川内村、県立ふたば未来学園）

第3条 会則第10条の補助金は市町村の負担金をもってあてる。

第4条 福島県中学校教育研究会の委員は、支部長がこれを兼ねる。

第5条 福島県中学校教育研究会の各専門部との連絡提携は、支部長の承認を得て各部長がこれに当たる。

## 中教研合併に伴う確認事項

- 1 相馬支部と双葉支部の合併に伴い、別紙「中教研ローテーション」とする。ただし、部の事情によりローテーションの変更もある。
- 2 理事については、国・社・数・理・英・道・特・情は3名とし、音・美・体・技家・図・養は2名とする。
- 3 原則として推薦理事は2年継続の学校から選出する。別紙「中教研ローテーション網掛け」
- 4 磯部・いいたて希望の里、原三・小高、なみえ創成・富岡、葛尾・楡葉、広野・学び舎ゆめの森、双葉・川内・ふたば未来は、合わせて1校として扱い、配当は両校間の話し合いとする。音楽・美術・体育・技家・図書については、理事から外すこととする。
- 5 会員数の少ない教科もローテ表を基本とするが、部の事情を優先する。
- 6 3を踏まえ、学校間や学校規模による偏りが少なくなるよう学校委員会で調整する。
- 7 主題研修会の資料作成、県大会への参加を同一校とする。
- 8 学校図書館部会は読書感想文審査会をもって二次研とする。
- 9 養護教諭部会の理事、会場は部会独自のローテーションによる。
- 10 4年度より、主題研修会は県中教研専門部総会で実施することに変更となる。（専門部長が資料を持ち寄り出席、資料作成は県大会参加者が行なう）
- 11 会場について
  - (1) 学校委員会、役員・理事合同会は、支部長が会場を選定する。
  - (2) 主題研修報告会は、資料送付をもって報告会とする。
  - (3) 第一次研究協議会（教科・教科外部会）は、南相馬市の中学校とする。

## 会則第1条に基づく支部の変更について

- 1 相馬支部と双葉支部の合併に伴い、相双支部と変更する。

令和6～令和11年度 中教研ローテーション(相双支部)

特：特別活動 情：情報教育 図：図書館教育

	理事・推薦理事																																			
	6年			7年			8年			9年				10年			11年																			
尚英	英	図	技	3	理	体	2	数	情	体	3	数	特	美	3	社	特	美	3	国	道	音	家	4	尚英											
原一	英	図	技	3	理	図	技	3	理	情	体	3	数	情	体	3	社	特	美	3	社	道	美	3	原一											
なみえ富岡	国	英	／	／	／	2	英	／	／	／	1	理	／	／	／	1	数	情	／	／	／	2	数	特	／	／	／	2	なみえ富岡							
中一	国	道	音	家	4	英	図	技	3	理	図	技	3	理	情	体	3	数	情	体	3	社	特	美	3	中一										
原二	国	道	音	家	4	国	英	音	家	4	英	図	技	3	理	図	技	3	数	情	体	3	数	特	体	3	原二									
葛尾檜葉	社	道	／	／	／	2	国	道	／	／	／	2	英	／	／	／	1	理	／	／	／	1	理	情	／	／	／	2	葛尾檜葉							
中二	社	特	美	3	国	道	音	家	4	国	英	音	家	4	英	図	技	3	理	図	技	3	数	情	体	3	中二									
石神	社	特	美	3	社	道	美	3	国	道	音	家	4	英	音	家	3	理	図	技	3	理	情	図	技	4	石神									
広野学び舎	数	特	／	／	／	2	社	特	／	／	／	2	国	道	／	／	／	2	国	英	／	／	／	2	英	／	／	／	1	理	／	／	／	1	広野学び舎	
向陽	数	情	体	3	社	特	美	3	社	道	美	3	国	道	音	家	4	英	音	家	3	理	図	技	3	向陽										
原三小高	数	情	／	／	／	2	数	特	／	／	／	2	社	特	／	／	／	2	国	道	／	／	／	2	国	英	／	／	／	2	英	／	／	／	1	原三小高
双葉川内未来	理	情	／	／	／	1	数	情	／	／	／	2	社	特	／	／	／	2	社	道	／	／	／	2	国	道	／	／	／	2	英	／	／	／	1	双葉川内未来
磯部いいたて	理	／	／	／	1	数	情	／	／	／	2	数	特	／	／	／	2	社	特	／	／	／	2	国	道	／	／	／	2	国	英	／	／	／	2	磯部いいたて
鹿島	理	体	技	3	理	情	体	3	数	情	美	3	社	特	美	3	社	道	音	家	4	国	道	音	家	4	鹿島									

- 1 南北で均等になるよう、いいたて希望の里学園は北とする。
- 2 理事については、国・社・数・理・英・道・特・情は3名とし、音・美・体・技家・図・養は2名とする。
- 3 原則として推薦理事は2年継続の学校から選出する。
- 4 磯部・いいたて(希望の里学園、原二・小高、なみえ副成・畠岡、葛尾・檜葉、広野・学び舎ゆめの森、双葉・川内小中学園・ふたは木米学園は、合わせて1校として扱い、配当は当該校間の話し合いとする。また、理事の数は、3名までとし、音楽・美術・体育・技家・図書については、理事から外すこととする。
- 5 会員数の少ない教科もローテ表を基本とするが、部の事情を優先する。
- 6 4を踏まえ、学校間や学校規模による偏りが少なくなるよう学校委員会で調整する。

	主題研修会持参資料作成・県大会参加者							中教研第二次研究協議会 会場校															
	6年	7年	8年	9年	10年	11年	6年	7年	8年	9年	10年	11年											
鹿島	家	技	体	体	英	美	理	音	数	特	社	英語		技家		保体		美術		音楽		鹿島	
磯部いいたて	国	家	技	体	体	英	美	理	音	数		英語		技家		保体		美術				磯部いいたて	
双葉川内未来	社	国	家	技	体	体	英	美	理			特活		道徳	英語		技家		保体			双葉川内未来	
原三小高	数	社	国	家	技	体	体	英				情報		特活		道徳	英語		技家		保体	原三小高	
向陽	理	数	社	国	家	技	体							情報		特活		道徳	英語		技家	向陽	
広野学び舎	英	理	数	社	国	家						国語				情報		特活		道徳	英語	広野学び舎	
石神	道	英	理	数	社	国						社会		国語				情報		特活		道徳	石神
中二	道	道	英	理	数	社						数学		社会				情報				特活	中二
葛尾檜葉	特	国	道	道	英	理	数					理科		数学		社会						情報	葛尾檜葉
原二	特	社	特	国	道	道	英	理	数			音楽		理科		数学		社会		国語			原二
中一	音	数	特	社	特	国	道	道	英			美術		音楽		理科		数学		社会		国語	中一
なみえ富岡	美	理	音	数	特	社	特	国	道					美術		音楽		理科		数学		社会	なみえ富岡
原一	体	英	美	理	音	数	特	社	特	国	道			保体	理科		美術		音楽		理科	数学	原一
尚英	技	体	体	英	美	理	音	数	特	社	特	国		技家		保体				美術		音楽	尚英

- 7 主題研修会の持参資料作成と県大会への参加を同一校とする。 ※太枠は県大会を兼ねる
- 8 学校図書館部会は読書感想文審査会をもって二次研とする。
- 9 養護教諭部会の理事、会場は部会独自のローテーションによる。
- 10 県大会参加者は専門部会員数が30名以下は1名以上、60名以下は2名以上、61名以上は3名以上とする。(県中教研基準)